

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択 老人看護CNS必修
担当教員			
◎小長谷百絵、原等子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 30時間			
	【担当教員】 【氏名】 ◎小長谷 百絵 原 等子	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学	【研究室】 213 303	【メールアドレス】 konagaya@niigata-cn.ac.jp naohara@niigata-cn.ac.jp	
	【本学の科目区分】 専門分野				
	【D P 1】 ◎	【D P 2】 ○	【D P 3】 ○	【D P 4】 ○	【D P 5】 ○
	【D P 6】				

到達目標	1. 高齢者の加齢変化に伴う健康生活を評価する理論的枠組み・方法・活用上の留意点を説明できる。 2. 高齢者のフィジカルアセスメントの方法・留意点を学修し、学生やモデル人形を対象に模擬的なフィジカルアセスメントすることができる。				
授業概要	高齢者看護では、高齢者が心身諸機能の加齢変化に伴う生活機能の変化に適応しつつ健康的な生活を送ることができるよう支援することが重要である。そのためには、極めて個別性の高い加齢変化や健康生活のあり様のアセスメント能力を修得することが求められる。そこで高齢者の健康生活の評価方法として開発されているものを活用上の留意点も含めて学修する。また、高齢者のフィジカルアセスメントの方法・留意点などを学修し、シミュレーションや事例検討を通して修得する。				
授業計画	<p>1 授業内容 授業形態：講義 学修課題：授業ガイダンス・高齢者の健康生活の評価方法 学修内容：・授業の目標・内容・方法（進め方）・評価方法、受講・課題・資料配布等のルール、参考図書などについて ・高齢者看護における健康生活の評価の位置づけ・重要性、および評価する上での留意点など 備考：小長谷 原</p> <p>2-3 授業内容 授業形態：講義 学修課題：高齢者のフィジカルアセスメント 学修内容：・フィジカルアセスメントの考え方、POSなど 備考：小長谷 原</p> <p>4-6 授業内容 授業形態：講義 学修課題：老化に伴う高齢者の身体・精神の機能の評価 学修内容：高齢者の機能変化の特徴とその評価 ・脳機能、言語、感覚器 ・呼吸・循環 ・身体運動と栄養 ・摂食・嚥下、口腔機能 ・排泄、自律神経・ホルモン 備考：小長谷 原</p> <p>7 授業内容 授業形態：講義 学修課題：老化に伴う高齢者の心理社会的機能の評価 学修内容：・発達的評価、主観的幸福感、生活満足度など 備考：小長谷 原</p> <p>8 授業内容 授業形態：講義 学修課題：高齢者を介護する家族の健康生活の評価 学修内容：・家族機能・家族の介護力の評価、介護負担感の評価など 備考：小長谷 原</p> <p>9-10 授業内容 授業形態：講義 学修課題：高齢者の健康生活の包括的アセスメント 学修内容：・高齢者のQOLの評価 ・老年医学総合評価：CGA ・国際生活機能分類：ICFなど</p>				

	11-14	<p>備考 : 小長谷 原</p> <p>授業内容</p> <p>授業形態 : 講義・演習</p> <p>学修課題 : 高齢者のフィジカルアセスメントの方法</p> <p>学修内容 : • 高齢者のフィジカルアセスメントの方法・技術とそのポイント, 留意点（頭頂から足先まで, 前面から後面）</p> <p>備考 : 小長谷 原</p>
	15	<p>授業形態 : 講義・演習</p> <p>学修課題 : 高齢者のフィジカルアセスメントの振り返り</p> <p>学修内容 : • 高齢者のフィジカルアセスメントの技術への振り返り</p> <p>備考 : 小長谷 原</p>
事前・事後学習	事前学修 : 高齢者の加齢変化を振り返り授業に臨む 事後学修 : 各自の看護実践でフィジカルアセスメントを活用する	
評価方法、評価基準	到達目標1, 2に対して, 事前学修状況 : 30%, 授業時の貢献度（発表・討議） : 40%, 課題レポート : 30%により評価する	
テキスト	最新の論文や文献を使用するため現時点では指定せずに授業内で案内する	
参考図書・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本老年医学会編(2008) : 老年医学テキスト・改訂第3版, メディカルビュー社. ・長寿科学総合研究 CGA ガイドライン研究班(2003) : 高齢者総合的機能評価ガイドライン, 厚生科学研究所. ・障害者福祉研究会(2002) : ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改定版－, 中央法規出版. ・大塚俊男, 本間昭(1991) : 高齢者のための知的機能検査の手引き, ワールドプランニング. ・MDメゼイ(2004) : 高齢者のヘルスアセスメント・自立生活支援の評価と解釈, 西村書店. ・内閣府(最新版) : 高齢社会白書. ・厚生労働統計協会(最新版) : 厚生の指標 国民衛生の動向, 国民の福祉と介護の動向. *その他, 授業の中で隨時紹介する. 	
受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は基本的に学習課題・内容について学生が事前学習し, レポートを作成して発表するとともに疑問点や不明点, 討議したい内容などについて討議して進めるゼミ形式とする. ・事前学修課題の提出は, 授業日の前日までに教員に提出する(メール可). ・授業後のレポート課題 : 「高齢者の包括的アセスメントの実践事例を通じて, 活用上の課題」 *詳細は初回開講時にガイダンスする. 	
教員からのメッセージ	高齢者個々の健康的生活を支援するには, 高度な看護実践力が求められます. 中でも健康生活評価方法やフィジカルアセスメント技術に関する確かな知識・技術・態度の修得が基盤になります. これらを修得して看護実践現場で個々の高齢者に適切に活用・指導できるようになることを期待します.	
オフィスアワー	隨時(メール調整)	